

自己点検・評価 報告書

【評価対象期間】 自：2023 年 4 月 1 日
至：2024 年 3 月 31 日
【評価基準日】 2024 年 4 月 1 日

学校法人ハリウッド美容専門学園
ハリウッドワールド美容専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、ハリウッドワールド美容専門学校の 2023 年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2024 年 4 月 30 日

校 長 丸 林 愛

自己点検・評価責任者

副理事長 古 賀 大 観

目 次

I	建学の精神・教育目標（人材育成像）	- 2 -
II	重点項目	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価	- 6 -
基準 1	建学の精神、目的、人材育成像	- 6 -
基準 2	学校運営	- 7 -
基準 3	教育活動	- 8 -
基準 4	学修成果	- 11 -
基準 5	学生支援	- 12 -
基準 6	教育環境	- 13 -
基準 7	学生募集	- 14 -
基準 8	財務	- 15 -
基準 9	法令遵守	- 16 -
基準 10	内部質保証	- 16 -
基準 11	社会貢献・地域貢献	- 17 -
基準 12	国際交流	- 18 -

評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

I 建学の精神・教育目標（人材育成像）

建学の精神

「真心をもってよしとする」

建学の精神を基に社会に貢献する、専門的な、高度な技術、知識と他者に
真心をもって接する有能な人材を育成する。

教育目標

1. 真心ある人材
2. 挨拶・返事・掃除（靴を揃える）
3. 国家試験合格
4. 専門知識と技術の修得
5. 社会人・専門職業人としてのプロフェッショナリズムを身につける

ディプロマ・ポリシー

本校では、建学の精神、教育目標を踏まえ、以下のような能力を備えた生徒
に対し、卒業を認定する。

1. 常に真心を中心にもち、高い人間性を備えた生徒
2. 自身の入学の目的を達成し得る、技能と視座を獲得した生徒
3. 専門職業人として、社会に貢献し、業界の高度化に寄与できる生徒

カリキュラム・ポリシー

本校では、美容師養成施設指定規則および指導要領、理容師養成施設指定規則および指導要領、ならびに教育目標に則り、3つの観点（専門技能教育・実践教育・専門職業人教育）学生が体系的かつ主体的に学習できるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実践する。

1. 専門技能教育においては、美容師養成施設指定規則または理容師養成施設指定規則による「必修課目」、ならびに「選択課目」を通して卒業認定に掲げる各能力を身につけることができるよう、課目ごとの到達目標を明確にし、評価することで、知識と技術の固い基盤をもった専門家を養成する。
2. 実践教育においては、地域住民やお客様と交流する実践授業を多分に取り入れながら、専門技能教育で学び得た知識や技術を応用して現場に適応させていく思考が深く身についた省察的实践家を養成する。
3. 専門職業人教育においては、単なる技術者の育成ではなく、高度な専門性を持ち、プロフェッショナリズム（高い倫理観や職業規範）を涵養させるためのプログラムを通して、業界の質を高め、高い視座から変革を率いていく人材を養成する。

アドミッション・ポリシー

本校の求める人物像は以下の通りである。

1. 物事を素直に受け入れて、すぐに実行することができる真心のある人物
2. 心身ともに健康であり、自己管理が十分にできる人物
3. 学びへの好奇心と、上昇志向を備えた人物

II 重点項目

1. 重点項目

- ① 学校の教育理念、教育目標（人材育成像）の見直しと周知。
- ② 教育活動の見直し：効果的な授業運営に向けた検討。
- ③ 教員の資質向上に向けた取り組み：計画的な研修参加、教員の資格要件の取得。
- ④ 教育環境の整備：安全管理に対する意識向上。

2. 取組み状況

- ① 本校では、「真心を持ってよしとする」という建学の精神の基、「よく学び、よく遊び、いつも感動」を教育方針とし、在校生ひとりひとりの「入学の目的」を達成させることを目標に学校運営を行っている。業界で求められる専門知識、技術、人間性の修得、その証としての検定、資格の取得が大学とは異なる専門学校の大きな使命であるが、生徒それぞれの目指すキャリア像を確実に実現させるための、パーソナライズされた教育実践が当学園にとっては不可欠である。そのためにも教職員全員が常に自身の「入校の目的」を日々確認し、生徒ひとりひとりの「入学の目的」を認識・共有することで、教育目標の達成、ひいては教育の目的の実現を目指している。
- ② カリキュラム・ポリシーにそって授業を実施し、卒業認定に掲げる能力を生徒が

修得していくが、近年、学力・メンタルの両面において様々な状況を抱える生徒が増えており、柔軟な対応が必要となってきた。さらに、昨今のテクノロジーの発達によりオンデマンドやオンライン等のコンテンツの充実を図っていくことで、人材を含めた教育リソースの効率化を行い、教育効果と効率性の高さを両立させる授業運営ができるよう整備を実施していく。

- ③ 学校の教育目標である美容師・理容師国家試験合格を達成するための教員の指導力向上の取り組みは、学校として必須事項であるが、国家試験課題において、技術指導の差異がみられることが課題であった。これを是正することを目的とし、学内での教員指導のための動画教材を準備し、専門技術の向上と平準化を行っている。加えて、美容教育のための研修のみならず、学生対応等の際のカウンセリングスキル等のソフトスキルを向上させるための研修設計も実施している。
- ④ 美容師・理容師国家試験合格を達成するための教育環境の整備においては、安全に配慮し、かつ実習等の授業に十分な設備を常に備えることが必要である。年に5回程度実施している火災・地震を想定した避難訓練についても、消防機関の助言のもと発生状況等のバリエーションなどを設けることで、全校での避難訓練を実施している。本年度は、予期せぬ重大事故を発生させてしまった教訓を真摯に受け止め、次年度は、危機管理ガイドラインの実効性のある精緻化を実施する。

3. 総括（成果と課題）

- ① 今年度の活動成果として、国家資格試験において極めて高い合格率を達成するとともに、就職希望者の就職率 100%達成という学校目標が今年度も確実に実現された。卒業後も、当校の理念を深く理解した卒業生たちが活躍している中、さらに卒業生たちが繋がり大きなネットワークとなって社会に貢献していけるよう、今後学校が中心となって同窓生コミュニティの企画を行なっていく。
- ② 教育活動の見直しの成果として、可能な限り多くのサロン様にデモンストレーション型授業を行なっていただくことでサロンワーク意識を持って授業に取り組め、現場の先端的な技術を取得でき、さらには就職の早期決定に繋がっている。学校行事及び課外活動に関しても、新しい行事や課外活動により新しい形での学

年や役割を超えた学生・教職員・地域間の交流が実現され、技術教育だけではなく、全人的な教育の機会の実現が達成できた。

- ③ 多くの教員に国家資格試験以外の検定資格（日本メイクアップ技術検定、日本化粧品検定など）の取得を実施させ継続的な専門性開発を行っている。併せて、教員の教育スキル及びリソースの拡充として学務課を設け、授業のバックアップ及び教材の開発などを実施し、質の高い教育環境の実現が達成できた。
- ④ 教育目標の達成に向けた教育活動実施のためには、ソフト面・ハード面での設備・システムの整備が不可欠であるが、オンライン環境や新校舎の新設など十二分に環境の整備を行っている。教育目標を確実に達成していくためには、災害等の危機的状況でも継続して学習が行われる環境や体制の整備を行う必要があるが、本年度に発生したクライシス状況においても、カウンセラーを含めた学校内外の教職員及び関係者の協力の元で、学校経営及び運営において大きな支障がなく継続経営及び運営が達成された。来年度は、再発防止に向けた改善を実施していく。

III 基準項目 自己点検・評価

=====

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

=====

中項目 1－1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

学校創設以来の建学の精神である「真心をもってよしとする」を、当校の学生・教員・職員の教育がなされた姿とし、その人材育成像を実現するために「よく学び、よく遊び、いつも感動」を教育方針として、学生ひとりひとりが決意した「入学の目的」を達成するべく教育実践を行っている。毎朝のホームルームでの「建学の精神」と「入学の目的」の唱和を行うことによって、高等教育機関でありながら、真心からのきめ細やかな躰指導の成果として、高校時代に欠席日数が過度であった学生が皆勤で卒業し、有名店に就職するなど、理念を具現化してい

る。

【課題】

課題としては、ソフトスキルの育成については可視化や腹落ちのしづらい部分が多いため、現代に生きる学生がセンスメイキングできる手法で伝え、2年間の学校生活を過ごす中で建学の精神や自己の新たな価値観や涵養していく必要がある。

【今度の取り組み】

卒業生などに学校生活時代やこれまでのキャリアを振り返ってもらう動画を作成し、学校の中で伝えている重要な考え方や価値観が社会でどう生かされているかについて在学生及び入学前の希望者に伝えて行っている。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

年度始めに基本方針を全職員に向けて発表し、基本方針をもとに各職員がそれぞれの役割に落とし込んだ目的を明確にし、目標を設定。毎朝のミーティングと週2回の責任者会議で進捗の報告を行いながら、方針の達成に向けて取り組んでいる。

【課題】

技術の習得に関しては、定量的に測りうるため問題ないが、当校の育成された人材像を真に実現したことを示す成果が定性的であることが多く、定量的に測れないことが課題。

【今度の取り組み】

当校独自の評価指標を整理し、可能な限り正確な定量化の可能性を模索する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S

2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	A
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	B
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	A
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	B
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	A
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

建学の精神、教育方針に沿いながら、教室内での授業による技能教育だけでなく、多彩な学校行事（ハリウッド校内コンテスト、サロンセミナー、体育祭、球技大会、バスハイク、卒業旅行など）を企画・実施し感性を育む教育を行っている。校外大会や校外イベントにも多数参加し、社会との繋がりを通じた教育活動や、理容師・美容師国家資格試験の内容だけではなく、幅広い理容・美容の知識・技術を習得できるようにするための多彩な選択科目を設け、卒業後即戦力として貢献できる人材の育成に勤しんでいる。

【課題】

課題としては、昨今のテクノロジーの発達により学校所在地の制限を超えた学びの形を提供できるようになっているため、現在のデモンストレーション型の授業も含めてさらに拡充をしていく必要がある。

【今度の取組み】

技術向上のための校内コンテストにおいても外部の評価者に多数評価をいただくことで、校内のコンテストの質を向上させることができた。新しい技術の開発や業界の変化に対応していくために、サロン様との協力でデモンストレーション型の授業を多く開発することができた。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
-----	------	-----------

3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	A

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行っているか。

【総括】

カリキュラムポリシーにおいて記載のように、美容師養成施設指定規則および指導要領、理容師養成施設指定規則および指導要領、ならびに教育目標に則り、3つの観点（専門技能教育・実践教育・専門職業人教育）学生が体系的かつ主体的に学習できるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実践している。校舎内にビューティーサロン、エステサロン、ブライダルサロンを併設しているため、実践教育が日々行われている。

【課題】

専門職業人教育の一環として、多数の校外イベントへの参加を通して倫理観や使命感を涵養しているが、体験を通して感じたことを個々人の考え方へと昇華させるための橋渡しのコンテンツの開発が必要である。

【今度の取組み】

地域の各イベントへの参加によって日頃学生達が学んでいる知識や技能を振り返り、生きた専門技能へと変化させていくことができた。またプロフェッショナルリズムの精神を個々人の中に芽生えさせるために、アウトプットの機会を作りながら指導を行なうことができた。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方法に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	A

3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	B
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行い、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成し、キャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

教育の評価を随時行うために、週2回の責任者会議において週間の教育目標の設定と評価を行いサイクル化に務め、最終的な教育目的を確実に達成できるように教員のみならず職員全体で進捗の共有を行っている。

【課題】

共同授業などにより教員間での教育評価は行われているが、現状多面的な評価ができていないことが課題として挙げられる。

【今度の取組み】

学生からのアンケート等のフィードバックの仕組みを整え教育の高度化を進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	B
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取組みを行っているか。	A

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

5 学期制度の特徴を活かして、成績評価や単位認定のために見極めテスト等での成績をもとに学習が遅れている学生にも補習等でバックアップを行うことによって、各学期において設定した成績評価基準まで到達させるよう教員が管理、指導を行うことができています。

【課題】

成績集計と評価、及び生徒へのフィードバックについても即時的に行うことができ、現状認識

ができるようになっている。学生たちが日々自分の立ち位置を確認できるようにしたい。

【今度の取組み】

学生自身が自身の到達度を確認して、自己調整ができるような教育システムの整備を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3－4－1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A
3－4－2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	A

中項目 3－5

教育活動を確実に実施するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

教育活動の確実な実施のために、教務部長、学年主任、副主任、担任、副担任などの通常の教員の役割に加え、各学生寮の指導担当教員や部活動の顧問などの役割も明確にし、教育体制の整備を行っている。教職員の能力開発のために学外からの講師を招き、まつ毛エクステンション、メイク、シェービングなど幅広い理美容技術の習得を実施している。

【課題】

新しい授業の方法やコンテンツの開発及び学生の学習支援のために、学務課を設けて教務の支援を行なっている。教務支援のために、学務課の充実を図る必要がある。

【今度の取組み】

教育活動の円滑化のために、オンデマンドコンテンツを利用した教員の能力開発や、オンデマンド教材の製作が内製化できるよう職員の技術開発も同時に行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3－5－1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分類・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3－5－2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3－5－3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	A
3－5－4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

=====

基準 4 学修成果

中項目 4 - 1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

2023 年度の美容師国家資格試験において、美容学科は合格率 96.9%、理容学科は合格率 100% と高い合格率を達成している。就職希望者においては、福岡はもとより東京や大阪など日本各地の名だたる有名サロンに就職するなど就職率 100%を達成。各種大会においては、STYLING COLLECTION において GOLD PRIZE と SILVER PRIZE の上位の表彰台を独占し、全国理容美容学生技術九州大会のワインディング部門にて満点優勝の快挙を達成するなど輝かしい成果をあげている。

【課題】

課題としては、校外のコンテストの規模感が小さくなり、多岐にわたるコンテストが出てきているため、教育効果の高いコンテストを選別し出場する必要がある。

【今度の取組み】

学校主宰のコンテストを多数開催することで学生のモチベーション維持と自身の目的達成へのマイルストーンとなるように企画運営を行なっていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4 - 1 - 1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	A
4 - 1 - 2	資格取得率・資格試験および合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S
4 - 1 - 3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4 - 1 - 4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A
4 - 1 - 5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	A
4 - 1 - 6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	S

基準 5 学生支援

中項目 5 - 1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

奨学金の申請対応なども丁寧に行っており、学費の面でも特待生枠を広く準備している。寮費についても地域のオーナー様方の協力をいただき、安心して生活できる費用でご提供いただいている。進路に関しても、就職率 100%を達成するなど就職先の企業様と連携して進路支援を行なっている。日常の学校運営における危機管理に関して、より高いレベルの危機管理を職員一人一人が担っていく必要がある。

【課題】

危機管理の対応に関して、当該年度において重大な学校事故を引き起こしてしまった教訓を元に、災害等の危機的状況でも継続して学習が行われる環境や体制の整備を行う必要がある。

【今度の取組み】

本年度に発生したクライシス状況においても、カウンセラーを含めた学校内外の教職員及び関係者の協力の元で、学校経営及び運営において大きな支障がなく継続経営及び運営が達成された。再発防止に向け、危機管理マニュアルの精緻化と継続性の高い取り組みを実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5 - 1 - 1	学生への修学支援を適切に行っているか。	S
5 - 1 - 2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5 - 1 - 3	学生相談に関する体制を整備しているか。	A
5 - 1 - 4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5 - 1 - 5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	A
5 - 1 - 6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5 - 1 - 7	保護者との連携を適切に行っているか。	A
5 - 1 - 8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	A
5 - 1 - 9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

基準 6 教育環境

中項目 6 - 1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

毎年の設備投資により快適かつ高度な教育が行われるように教育環境を整備している。総敷地面積約 10,000 坪の広大な土地を活用し、3 つの充実した校舎でのびのびと活動できる環境を提供。2022 年度の新校舎オープンにより、サテライトができたため BCP 対策として機能している。

【課題】

災害時の運用などを、危機管理ガイドラインを踏まえて細かく制度化していく必要がある。

【今後の取組み】

LED 化が進んでいない設備があるため、年度内に完了するように進めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6 - 1 - 1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6 - 1 - 2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6 - 1 - 3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目 6 - 2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

海外研修においては、2023 年度はロイヤルメイクアップコースの全員を対象に韓国の姉妹校でのヘア&メイク研修を実施し、グローバルな視点を身につける環境を整えている。安全管理については、当該年度に重大な学校事故を発生させてしまったため、改善点を洗い出し再発防止に向けて学校全体で危機管理の高度化に取り組んでいく必要がある。

【課題】

海外研修等においては、円安や主要国のインフレ状況により海外研修などの国際的な教育環境の見直しが必要となっている。

日常から学校全体での危機意識をより高く持ち、未然に防ぐための防止策及び発生した際の対応策を見直し検討していく必要がある。

【今度の取組み】

災害等の状況下でも揺るがない教育環境を構築するために平常時に様々な準備を行っていく。
当該年度のクライシス状況においても、学校経営及び運営において大きな支障がなく継続経営
及び運営が達成された。安全管理を更に充実化させていくために、再発防止に向け、危機管理
マニュアルの精緻化と継続性の高い取り組みを実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	C

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

学生募集に関しては、2023 年度は当校内で発生した事象により難しい状況ではあったが、その中でも九州・沖縄はもとより全国から多数の学生が入学することができた。入学者選抜においても、受験者全員に対して面接試験を行い、アドミッションポリシーに該当する候補者かどうかを見極め、公正で適切な選抜を行なっている。

【課題】

SNS を含めた様々な媒体を通しての認知向上が必要となる。社会状況の変化等により広報戦略の見直しが必要であるため改善を行う。

【今度の取組み】

WEB 面接試験を含めた新しい選考方法を検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	A
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S

7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務基盤としては、安定的かつ継続的に学校運営を行なっていくために必要な流動資産を十分に蓄えている。毎年、教育環境の整備に必要な設備投資をしながらも次期繰越金が残るよう経営を行っている。当該年度については、特別な事象で損失が発生しているが、教育活動の安定性には問題がない。

【課題】

財務状況については問題ないが、長期的な視野の資産管理が必要である。

【今度の取組み】

長期的インフレの経済状況を見越した施策が必要になってくるため、安定的で確実な資産の運用を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	A
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行っているか。

【総括】

学校教育法および専修学校設置基準を始め関係法令や学内規定によってコンプライアンスに配慮した学校運営を行っているが、昨今の社会環境の変化による要請に応えることができるよう改善していく必要がある。

【課題】

社会情勢に対応した規定の変更が必要である。

【今度の取組み】

学内の諸規定等の見直しを行い、教職員ひとりひとりが実行をしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	A
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	A

基準 10 内部質保証

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

学校行事に多くの関係者に参加いただきながら質保証のためのご意見をいただいている。2023 年度もワーキングアカデミーコースの開始式には協力サロン様にご出席いただき、当該コースの目的とサロン様に求める役割を十分に認識いただくなど連携を図っている。地域の寮オーナーの皆様にもオーナー会を通して随時ご意見を頂戴し、様々な視点からの内部質保証のための取り組みを行っている。教育情報については、保護者様に対してメーリングリストアプリを活用し即時性のある情報の提供を行うとともに、高等教育機関としては稀な参観ウィークを設けて保護者様からのご意見をいただく機会を作っている。

【課題】

教育内容を正確に評価するための評価制度の構築が必要。

【今度の取組み】

自己評価を含め評価制度の見直しを行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	S
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	A

基準 11 社会貢献・地域貢献

中項目 11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

当校は開校以来、柳川地域の密着した活動を行っている。地域社会に対する還元として、学校周辺の美化活動などの実施。また、エステコースの学生を主体として老人ホームやガン患者様のターミナル施設を訪問し、美容技術を活用したセラピーも行っている。さらに、地域の多くのイベントに協力参加し、社会貢献、地域貢献を実現している。学内に、ローターアクトクラブも設置し、メンバーとしてのボランティア活動なども行い国際貢献も実施している。

【課題】

引き合いが多いため、全てのイベントに参加することが困難となっているため、地域のイベント等の日程を考慮しながら学校年間行事やカリキュラムのスケジュールを次年度以降考えていく必要がある。

【今度の取組み】

地域の重要な医療を担う病院とのコラボレーションで、当校内でシニアファッションショーを実施する予定としている。現在でも市内外から多数の参加希望をいただいております、大変期待をいただいている。昨年度は地域から多大なる支援をいただいたため、学校としてより地域に貢献ができるよう企画立案を行い、実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

基準 1 2 国際交流

=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

当校は、韓国の美容専門学校 BBS グループと二十年以上の姉妹校交流を行っており、BBS グループ研修団の来校の際には学生間の技術交流だけでなく、懇親会における文化交流も実施している。さらに、BBS グループを通しての韓国人留学生の受け入れも実施し、現在三名の学生が日本の美容技術習得のために研鑽している。日本人の学生に向けても、韓国の美容留学のための日本初のプログラムを設置したため、第一期生の送り出しに向けて入念な準備を行なっていく。

【課題】

今年度は学生交流の相互渡航も再開し、韓国訪問団の研修も実施、当校学生の韓国での研修も実施できた。

【今度の取り組み】

2021 年度よりグローバルビューティーアカデミーコースを充実させ、国際的な学習環境を整えている。今年度内に 3 回の海外研修を予定しているため入念な準備を行なっていく。併せて、今年度も BBS からの学生の受け入れがあるため入念な準備を行なっていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	S
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	S
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S